

おやま道をたどる ⑥

一合目 鈴原社

馬返しより登山道は木立の中を進むようになり、「木山」という言葉を実感できるようになります。

五百ほど登ると一合目にある鈴原社に着きます。ここにはかつて大日如来が祀られていました。大日如来は浅間明神の本地仏ということで、登山道最初の社として安置されたとのこととす。



右の写真は、登山道からの全景、下段右は拝殿のアップです。「まねぎ」が多く奉納され、名前を象徴するような大



きな鈴が見えます。左は現在の様子ですが、冬山の厳しさを考えると崩壊寸前といってもおかしくありません。

二合目 小室浅間神社

二合目手前の一合五尺あたりには、「二合目一の鳥居」とし

て木造の鳥居があったとのこととす。この鳥居は御室浅間神社に対する最初の鳥居という意味で、その鳥居から先は神社の境内であるという認識があったようです。御室（小室）神社は富士山中で最初に勧請された社とも言われています。また、吉田の浅間神社を「下浅間」、御室浅間神社を「上浅間」とする呼び方もありました。河口湖南岸の富士御室浅間神社の「山宮」とされていた関係もあり、昭和四十七年には、勝山村（現富士河口湖町）の里宮境内に本殿は移築されています。



聖地巡拝 ⑥

身禄尊師御生家



前回、角行尊師、食行尊師の墓所をご紹介いたしました。今回は、食行身禄尊師の御生家を訪ねます。

食行身禄尊師は、三重県一志郡美杉村川上にお生まれになりました。古来、伊勢志摩地方は富士講よりも古い形態をもつ富士信仰が盛んだった地で、尊師が江戸に出て富士講に入信されたのも、そうした素地があったからと思われま

す。尊師の本姓は小林氏ですが、川向うの非浦に小林家本家は移転され、御生家は久保文良氏に依ってお守りされています。一時は人手に渡り、所有者に良からぬことが起こった

といわれた御生家ですが、久保氏の御内室は小林家の出ということもあり、何よりも久保氏の御尽力によって、草葺きであった屋根がトタン葺きに変わった程度で、五十坪ほどの家組みは往事のまま立派に保存されております。また、久保氏の御力で平成九年には、身禄生家の碑が建立されました。

尊師に関わる文書・御遺髪等が長らく小林家でお祀りされていましたが、先年三重県に文化財指定となり、県に委託されました。

